

# 全国ユース 環境ネットワーク

第2回  
全国ユース環境活動  
発表大会  
2017年2月5日(日)

主催：全国ユース環境活動発表大会 実行委員会  
環境省  
独立行政法人環境再生保全機構  
国連大学 サステナビリティ高等研究所

協賛：キリン株式会社  
協栄産業株式会社  
SGホールディングス株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社



# 第2回 全国ユース環境活動発表大会



2017年2月4日、5日の2日間、東京・渋谷区にある国連大学で、「第2回全国ユース環境活動発表大会」が開催されました。全国から16高校が集まり、1日目は「ユースESD学び合いフォーラム」、2日目は「全国ユース環境活動発表大会」が行われました。表彰式には、山本公一環境大臣も出席され、環境大臣賞が贈呈されました。次世代を担うユースが、熱心に発表し、そして交流した2日間でした。

## ご挨拶

環境大臣  
山本公一



環境大臣の山本公一です。本日は、全国から大勢の方にご参加いただき、ありがとうございます。また、審査委員の皆様におかれましては、長時間にわたる審査、心より御礼申し上げます。

高校生・大学生の皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。環境保全と地域経済の活性化を同時に実現したり、行政や企業と連携して地域の環境課題の解決を図ろうとするなど、皆さんが日頃から熱心に活動してくれていることに、環境大臣として、深く敬意を表したいと思います。

2015年のことですが、ニューヨークの国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、2030年をターゲットとした「持続可能な開発目標」が採択されました。その頭文字をとって「SDGs」と呼んでいますが、SDGsは、地球規模の課題について17の目標を定めるもので、気候変動への対処、持続可能な消費と生産など、数多くが環境に関連しています。皆さんの活動は、まさにSDGsを達成するための重要な取組そのものです。

高校生・大学生の皆さん、2030年や更にその先を見据えて、将来こんな世の中にしたいという熱意をもって、これからも精力的に環境保全に取り組んでください。そして、日本のみならず、国際社会の持続可能な未来を切り拓いてください。

私には孫が6人いるのですが、皆さんを含めた将来を担う世代のためにも、環境大臣として、昨日より今日、今日より明日、一歩ずつでもより良い社会に向かって前進したいと思っています。環境省は、皆さんをしっかりと応援していきます。

最後になりますが、本日ご来場の方々のますますのご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

## ご挨拶

国連大学  
サステナビリティ高等研究所  
所長 竹本和彦



国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)は、第1回に続き本年も「全国ユース環境活動発表大会」を環境省、環境再生保全機構と共同で開催いたしました。各地から多くの皆様方にご参加いただき御礼申し上げます。

地球環境問題をめぐっては、2015年に世界で2つの大きな動きがありました。1つは「持続可能な開発目標」(SDGs)の採択です。9月の国連総会で193ヶ国が2030年までに取り組む共通の目標に合意しました。SDGsは、貧困、飢餓、教育、ジェンダー、水、エネルギー、気候変動、陸上生態系の保護など、17の項目から成り立ち、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて世界が協力していくための目標となっています。もう1つは、12月に「気候変動枠組条約第21回締約国会議」(COP21)で採択されたパリ協定です。この協定は、国際社会全体で温暖化対策を確実に進めるための仕組みで、平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求することを世界共通の目標としています。

国際社会は、これらの意欲的な目標の合意から2年目に入り、目標を具体的な行動に移すための重要な時期を迎えています。特に、将来世代を担う若い世代の皆様方が目標達成に向けた活動にかかわることは大変重要であり、既にこうした活動の輪が広がっています。国連では、目標への取り組みをリードする優秀な若者17人を毎年認定する「国連ヤングリーダーズ・イニシアティブ」が始まりました。また、石川県金沢市に拠点を置くUNU-IASいしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット(OUIK)は、関係機関と連携し、県内の高校でSDGsや地域の問題に関するワークショップを開催しました。さらに、第2回ユース環境活動発表大会の1日目には、参加した高校生の皆さんに2030年と今の活動を繋げることで未来を明確化するワークショップ「2030」を開催するなど、若い世代を対象にした活動も実施しています。

UNU-IASは、これからも様々な活動を通じてユース世代の環境活動を応援していきます。今後も皆様方のより一層の活動を期待します。

## 第2回 全国ユース環境活動発表大会

**日程** 2017年2月4日(土)・5日(日)

**会場** 国連大学ウ・タント国際会議場

**主催** 全国ユース環境活動発表大会実行委員会

環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所

**協力** 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)／地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

全国大学生環境活動コンテスト実行委員会／WWF(世界自然保護基金)ジャパン／  
一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

**協賛** キリン株式会社／協栄産業株式会社／

SGホールディングス株式会社／三井住友海上火災保険株式会社



### 環境大臣賞

副賞：海外での環境活動体験

#### 長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部

##### 農業廃棄物の有効利用法 かぼちゃのゼロ・エミッションへの挑戦

長崎県のかぼちゃの生産量は8,160トンで、全国第4位を誇る。しかしその裏側では、形や色が悪く規格外品として処分されるかぼちゃは約20%にのぼる。そこで規格外かぼちゃを活用し、新しい加工品として中華菓子「月餅」を開発。また栽培と共に発生する「蔓」や「葉」は焼却処分しており、その際に生じるCO<sub>2</sub>は地球環境に悪影響も与えている。この農業廃棄物を有効利用し、特産の「和紙」を製造。地元産業にも貢献している。



### 環境再生保全機構 理事長賞

副賞：国内での環境活動体験

#### 慶應義塾湘南藤沢高等部 有志団体 環境プロジェクト

##### 未来の環境は私たちの手に

有志団体「環境プロジェクト」。メンバーは10名にのぼる。「身の回りの全ての、ものごと・人のつながり」を環境と捉え、「環境に興味を持ち、自身の見聞を深める」「自らが行動し、啓発の中心となる」理念を共有し、自身の興味分野で環境と関わっていくことを目指す。6グループに分かれ、「小学校授業」では準備に数か月をかけ発案から実践まで全て高校生の手作りで活動している。



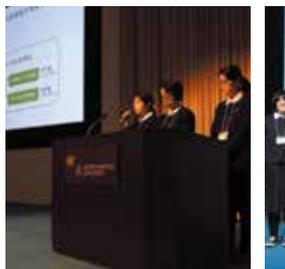
### 国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

副賞：石川県での環境プログラムの体験

#### 兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班

##### 六甲山のキノコにはどんな多様性があるのか～地域連携から伝える生物多様性～

学校行事の六甲登山でエノキタケを見つけたことがきっかけで、「六甲山にはどんなキノコが生えているのだろうか?」と調査を開始。キノコの多様性を調査し魅力を発信し、六甲山のキノコの多様性を多くの人に伝える活動を実践。今までに約500種類1000点以上を標本化してリアルに伝えているため、公的機関や民間企業からの企画展、鑑定相談、啓発活動などの依頼も多く、地域の活性化、環境への意識の変化にも貢献している。



### 高校生が選ぶ特別賞

#### 群馬県立利根実業高等学校 生物資源部

##### 赤城山北西麓におけるイノシシの生態・行動調査と侵入防護柵の製作

廃材利用による低コストで移動と設置が容易な、イノシシ用の仮設型侵入防護柵を製作。被害のあった水田で検証実験を行い、その結果イノシシの侵入被害を防ぎ、農業収益の確保が確認された。また各種発表会や出前講座、公共の場での情報発信もおこなっている。



### 先生が選ぶ特別賞

#### 北海道帯広農業高等学校 十勝川多自然川づくり班

##### 十勝川中流部における湿地再生と生物多様性の回復

河川整備事業により生物多様性の危機に瀕している十勝川中流部中心に、行政と市民との「協働」による湿地再生から、生物多様性の回復を目指した活動を展開。その結果として希少種の生息や生物数の増加が確認され、野生生物保護において大きく貢献している。



# 第2回 全国ユース環境活動発表大会

## 環境活動発表会の参加校は全部で16校

それぞれの学校が優秀な環境活動を実践してきた事が認められ、日本全国から選ばれてきた代表校です。惜しくも特別な賞を逃した高校にも、生徒はもちろん、活動を支えてくれた先生やご家族にも敬意を表し「優秀賞」の賞状が贈呈されました。

### 兵庫県立播磨農業高等学校

#### 播磨竹鶏物語

##### 竹チップ大作戦!! ~救え、未来の畜産業~

全国で増加の一步をたどる放置竹林を整備することで、その竹を有効利用先として、家畜の飼料に着目。自給率の向上や飼料代の削減、さらには生産物の品質向上も見込めるのではないかと考え、地域の協力を得て研究おこなっている。



### 宮城県農業高等学校

#### 科学部復興プロジェクトチーム

##### 津波地域を甦らせる! ~目指すはバラと食物連鎖を利用した環境修復型農業~

東日本大震災1年後、「復興プロジェクトチーム」を立ち上げ、「桜保存プロジェクト」を開始。環境修復型農業の必要性から研究を進め、中国貴州省の野バラ「ツリー」を利用した取り組みに発展し、商品開発などもおこなっている。



### 山陽女子中学校・高等学校

#### 地歴部

##### マイクロプラスチック: 見えない環境問題へのアプローチ

瀬戸内海で深刻な問題となっている海底ごみの問題を中心に、新たな問題としてマイクロプラスチックにも着目。海底ごみの回収方法を研究し、実際の回収活動や啓発活動、ごみの可視化など地域を超えた取り組みなどをおこなっている。



### お茶の水女子大学附属高等学校

#### 環境チーム

##### ファッションと環境問題 ~〈服〉で地球に幸〈福〉を~

関心を持ちやすく、楽しみながら問題解決に繋げていける身近な存在の服を取り上げ、「ファッションと環境問題」というテーマを設定。ここから「知る」、「広める」という二つの観点を築き上げ、「知る」について4つの活動をおこなった。



### 広島県立油木高等学校

#### ニカワプロジェクト

##### 獣害から新たな資源へ、農村の6次産業の可能性

廃棄処分されているイノシシから、日本の伝統文化財補修に使われる膠を生産することを考案、効率的な生産方法を実験により確立し、膠の活用方法として墨を作ることに成功。情報発信としてその墨汁を活かしたイベントも行われた。



### 愛知県立時習館高等学校

#### SSH生物部環境班

##### 三河湾の環境調査

東三河の高校生を対象に「東三河海洋環境探究講座」を毎年実施。その中で、三河湾の環境指標調査を平成20年度から継続して行い、干潟をはじめとする三河湾の環境の保全に役立てることを目的として地域に広報活動をおこなった。



### 徳島県立小松島西高等学校勝浦校&徳島県立新野高等学校

#### 緑のリサイクル・ソーシャル・エコプロジェクトチーム

##### ゴミとして捨てるのもったいない!

~資源循環型肥料の開発から次の一手・次の一步に向けた環境創生への取り組み~  
河川や道路・公園等の維持管理で発生する「刈草」を活用して出来た資源循環型肥料「もったいない2号」を開発。同時に新たな産官学民連携の資源循環や、脱炭素社会といった暮らしの在り方への情報発信、啓発活動をおこなっている。



### 岐阜県立恵那農業高等学校

#### 環境科学科

##### 空心菜栽培による地域貢献・支援活動

岐阜県恵那市の阿木川ダム湖に発生したアオコを防ぐため、環境負荷が少なく低コストの「浮島」で空心菜栽培を考案。ダム湖の水質浄化はもちろん、ミニ浮島や空心菜レシピなどの開発も行い、地域の協働活動のシンボルとなっている。



### 福岡県立水産高等学校

#### アクアライフ科

##### 豊かな海づくり -Project -T-

漁場環境の悪化する玄界灘に対し、藻場を増やし漁場を豊かにするために近くの山の竹林を整備。伐採した竹は竹魚礁として海中に設置。また竹炭を利用した磯焼け対策として「鉄と竹炭のおにぎり」を作り、フルボ酸鉄を海に与えている。



### 神戸山手女子高等学校

#### カメラ部

##### イシガメ保全プロジェクト

ミシシippiaカミガメ駆除のために淡水ガメのデータを収集する活動から、地元関係施設のバックアップを受け、日本在来種であるニホンイシガメを1か所に集めて繁殖できるかどうかを、長期にわたって観察する活動をおこなっている。



### 沖縄県立中部農林高等学校

#### エコリサーチ部

##### 美ら島を守る高校生の挑戦! ~伝統ある蘭草がつなぐ結び~

琉球畳の原材料である蘭(い)草の現状調査や、植え付けなどを行い、蘭草を使ったものづくりやマーケティング、知名度の向上などについて地元の企業や大学などと連携。伝統文化継承や蘭草農家が抱える課題について取り組んでいる。



## <審査委員> (敬称略、委員は50音順)



審査委員長  
**小澤 紀美子**  
東京学芸大学名誉教授

### <審査委員長 講評>

地域の課題に真摯に向き合い、自分たちだけでなく周りの多様な方々を巻き込んで進めている多様な活動が多かったですね。これからも活動を広げていってください。



委員  
**筒井 隆司**

WWF(世界自然保護基金)ジャパン事務局長



委員  
**永見 靖**

環境省総合環境政策局環境経済環境教育推進室長



委員  
**幡谷 剛**

SGホールディングス株式会社総務部ゼネラルマネジャー



委員  
**福井 光彦**

独立行政法人環境再生保全機構理事長



委員  
**渡邊 綱男**

国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター

## 大学生表彰(全国大学生環境活動コンテスト2016 受賞2団体)

### 第14回 全国大学生環境活動コンテスト

主催：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

共催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

独立行政法人環境再生保全機構

特定非営利活動法人エコ・リーグ

協賛：公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団／

3R活動推進フォーラム／

J-POWER 電源開発株式会社／株式会社TBM／

ワタミファーム & エナジー株式会社

物品協賛：協栄産業株式会社／株式会社大地を守る会／

株式会社山櫻

後援：環境省／文部科学省／読売新聞社／

全国大学生生活協同組合連合会

協力：株式会社ダイナックス都市環境研究所



全国大学生環境活動コンテスト



## 第14回 全国大学生環境活動コンテストが開催されました

「全国大学生環境活動コンテスト(ecocon)」は、環境に関心のある全国の大学生が1年に1度集まり発表・交流・学習を行うイベントで、企業、行政、学識経験者、環境団体などの社会人の選考委員を交え、1年間実施した活動の振り返り、評価を行うコンテストです。平成28年12月23日、24日に、第14回全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2016)が、開催され、全国各地から25の学生環境団体が参加し、2日間で延べ450人が参加しました。コンテスト以外にも、交流会、分科会などの環境に関わる様々なイベントを開催しました。2日間にわたるコンテストにおいて、全国の団体の中から今年度グランプリとなったのは一橋大学・国立あかるくらぶ、準グランプリは徳島大学・ふるさと愛好会山班の皆さんでした。



環境大臣賞  
グランプリ

くにたち

### 国立あかるくらぶ

#### 国立市を日本一きれいな街に

国立あかるくらぶは一橋大学の公認サークルです。国立市内の環境、防災、まちづくりを軸に、「国立市内をもっと明るくする」、「国立を日本一きれいな街にする」ことを目標に活動を行っている団体で、2015年10月に発足しました。地域への貢献を強く意識した「どローカル」の活動を実践しており、ごみが落ちている場所をGPSで記録するごみ拾いアプリを独自に開発したり、防災マップの授業を小学校で実施するなど、学生ならではの楽しくてユニークな活動を実施しています。

ecoconには今年度2回目の参加で、同じ学生から自分たちの活動がどう評価されるかを知りたかったため、参加を決めました。国立市内には他にも大学生や高校生などのユースがいるため、彼らとの連携も今後は進めながらも、市内の環境がより一層よくなるような活動を続けます。



環境再生保全機構 理事長賞  
準グランプリ

あいこうかい やまはん

### ふるさと愛好会 山班

#### 里山地域での活動と展望

ふるさと愛好会は徳島大学の公認サークルです。上勝町、阿波市、佐那河内村などを中心としたまちづくりの活動に広く携わっている団体で、2014年8月に発足しました。

地域の課題を地域全体で解決するボトムアップ式のまちづくり活動を実践しており、地域の住民、地域おこし協力隊と協力しながら、様々な地域振興活動に関わる活動を行なっています。

ecoconには今年度初参加で、さまざまな立場の人から客観的な評価が得ることができ、他の学生との交流を行いたいという理由で参加を決めました。まだ立ち上げたばかりなので、今活動をしている地域とそこに携わる人たち、設立当初の想いを大切にしつつ、自分たちが楽しいと思えるまちづくり活動を継続します。



【2017開催概要】

## 第15回 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会(ecocon 2017)の開催が決定しました!

日時 平成29年12月27日、28日

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

募集などの詳細は、今後ホームページに掲載します。

<お問合せ> 東京都港区西新橋2-11-5 TTK西新橋ビル3F

(株)ダイナックス都市環境研究所内

TEL: 03-3580-8284 FAX: 03-3580-8265

Mail: support@ecocon.info URL: http://www.ecocon.info/

# <第2回 全国ユース環境活動発表大会> 応募高校一覧

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」に、たくさんの高校・団体よりご応募をいただき誠にありがとうございました。全国の高校生が熱心に活動をしている情報が集まりましたのでご紹介いたします。

ぜひ、今後の活動の参考に、また情報交換や交流の一助にしてください。

(全国ユース環境ネットワーク事務局)

掲載例) 上段: 高校名  
中段: 団体名  
下段: 活動名



「全国ユース環境活動発表大会」の地区別の都道府県は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。

<p><b>北海道</b></p> <p>5団体</p>	<p><b>福島県立平工業高等学校</b> 生徒会 社会福祉や国際貢献を通じた環境活動の取り組みについて ~すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために~</p>	<p><b>静岡県立富岳館高等学校</b> 農業クラブ 地球温暖化から緑を守れ</p>	<p><b>岐阜県立飛騨高山高等学校</b> 森林活用班 家を建てよう</p>
<p><b>札幌新陽高等学校</b> アグリクラブ 廃棄コーヒー豆の堆肥化による再利用への挑戦</p>	<p><b>関東</b></p> <p>15団体</p>	<p><b>オイスカ高等学校</b> 生徒会 LOVE GREEN プロジェクト</p>	<p><b>愛知県立木曽川高等学校</b> 総合実務部 「消えたイタセンバラ」 (今、わたしたちができる事は何?)</p>
<p><b>北海道帯広農業高等学校</b> 十勝川多自然川づくり班 十勝川中流部における湿地再生と生物多様性の回復</p>	<p><b>群馬県立伊勢崎興陽高等学校</b> 植物バイオ研究部 廃棄野菜の総合的な活用</p>	<p><b>静岡県立浜松城北工業高等学校</b> 環境部 「地球にやさしいエンジニアを目指して!」</p>	<p><b>愛知県立南陽高等学校</b> Nanyo Company部 カーボン・オフセットを活用した環境保全の取組</p>
<p><b>北海道函館水産高等学校</b> 北のくにつくり2016 国立公園「大沼」流入3寡占のCOD調査</p>	<p><b>群馬県立利根実業高等学校</b> 生物資源部 赤城山北西麓におけるイノシシの生態・行動調査と侵入防護柵の製作</p>	<p><b>静岡県立静岡農業高等学校</b> 松葉研究班 松葉を地域資源とし活用して発信する</p>	<p><b>愛知県立名南工業高等学校</b> 化学工業科 ひまわりCa・Feクラブ ひまわりの花は「万華鏡」 ~万華鏡づくりを通じて地域貢献</p>
<p><b>北海道標茶高等学校</b> エゾシカ革の有効活用プロジェクト ヒトとイノチをつなぐエゾシカレザー</p>	<p><b>群馬県立利根実業高等学校</b> 生物資源部 赤城山北西麓におけるニホンジカの生息・行動サイクル調査</p>	<p><b>山梨県立甲府南高等学校</b> 生徒会 Neco・プロジェクト (南高エコプロジェクト)</p>	<p><b>名古屋経済大学高蔵高等学校</b> 理科部 山崎川から学んだこと</p>
<p><b>北海道標茶高等学校</b> 北海道標茶高等学校敷地内ガイドプロジェクト 地域の魅力発信! 軍馬山フットパス</p>	<p><b>群馬県立尾瀬高等学校</b> 理科部 尾瀬国立公園大清水湿原の復元に向けて</p>	<p><b>中部</b></p> <p>14団体</p>	<p><b>愛知県立佐屋高等学校</b> 名古屋城ヒメボタル守り隊 名古屋城いにしへのヒメボタルは、私達農業高校生が守る</p>
<p><b>東北</b></p> <p>6団体</p>	<p><b>千葉県立津田沼高等学校</b> 鳥類班 ~谷津干潟のアオサと水鳥が共生できる未来を信じて~</p>	<p><b>長野県飯田OIDE長姫高等学校</b> コンピュータ制御部 地球を守れ! テックレンジャー</p>	<p><b>愛知県立時習館高等学校</b> SSH生物部環境班 三河湾の環境調査</p>
<p><b>青森県立久井農業高等学校</b> TEAM FLORA PHOTONICS 草花による室内空気浄化活動</p>	<p><b>千葉県立津田沼高等学校</b> アオサ班 アオサから始める谷津干潟保全 ~有効活用への道~</p>	<p><b>エクセラン高等学校</b> 環境科学コース 「自然と人」「社会と人」「人と人」をつなぐエクセランエコプロジェクト</p>	<p><b>三重県立名張西・名張青峰高等学校</b> 科学部 三重県名張市青蓮寺ダム周辺の獣害に関する調査</p>
<p><b>秋田県立大曲農業高等学校</b> 生物工学部 酸性の湖、田沢湖の中性化 ~クニマスの未来をかけた取り組み~</p>	<p><b>お茶の水女子大学附属高等学校</b> 環境チーム ファッションと環境問題 ~(服)で地球に幸(福)を~</p>	<p><b>長野県南安曇農業高等学校</b> 土木研究部 再生コンクリートの活用で循環型社会の構築を目指して</p>	<p><b>近畿</b></p> <p>21団体</p>
<p><b>宮城県農業高等学校</b> 科学部復興プロジェクトチーム 津波地域を甦らせる! ~目指すはバラと食物連鎖を利用した環境修復型農業~</p>	<p><b>法政大学女子高等学校</b> エコ・アクション・プロジェクトチーム 横浜・鶴見をドングリの森に ~小鳥やリスがやってくる町~</p>	<p><b>岐阜県立恵那農業高等学校</b> 環境科学科 空心菜栽培による地域貢献・支援活動</p>	<p><b>滋賀県立八日市南高等学校</b> ランドスケープデザイン班 猪子山 ~異年齢交流による里山保全活動の10年~</p>
<p><b>宮城県村田高等学校</b> JRC部 心温まる地域連携活動</p>	<p><b>神奈川県立中央農業高等学校</b> 養豚部 地域資源を活用した新たなリサイクルループの確立を目指して</p>	<p><b>岐阜県立加茂農林高等学校</b> ハイビスカス・ローゼル 地域の里山環境の改善 ~耕作放棄地の活用方法の提案~</p>	<p><b>京都市立伏見工業高等学校</b> バイオマス温度差発電グループ 木質バイオマス利用温度差発電</p>
<p><b>山形県立酒田光陵高等学校</b> エネルギーで環境保全隊 再生可能エネルギーを利用して、環境保全に全力でエネルギーを注ごう!</p>	<p><b>慶応義塾湘南藤沢高等部</b> 有志団体 環境プロジェクト 未来の環境は私たちの手に</p>	<p><b>岐阜県立岐阜工業高等学校</b> 化学研究部 いやな未来を消すけしゴム ~笑顔の輪を広める環境活動~</p>	<p><b>京都府立綾部高等学校</b> 分析化学部 地域と歩む由良川保全活動 ~広げられゴミ回収プロジェクト~</p>

**京都府立木津高等学校**  
園芸部  
竹 伐る、川 診る、ゴミ 拾う

**兵庫県立加古川東高等学校**  
粉粒体チーム  
水波を用いたため池の浮遊物の回収

**島根県立吉賀高等学校**  
地域クラブ  
高津川をフィールドとする  
「山川里海」のつながり

**福岡県立水産高等学校**  
アクアライフ科  
豊かな海づくり - Project - T -

**京都府立桂高等学校**  
TAFS「地球を守る新技術の開発」班  
MAPを活用した革新的な堤防維持管理技術の開発  
～研究による復興支援活動～

**兵庫県立農業高等学校**  
生物部  
兵庫の自然遺産「ため池」  
～水辺環境の保全活動～

**島根県立松江工業高等学校**  
島根の特産物再利用(環境班)  
リサイクルとして出るコンクリート片と  
シジミ殻の再利用

**福岡県立糸島農業高等学校**  
根っこ部  
糸島から世界に広がれ  
根こぶ病対策の輪

**大阪府立園芸高等学校**  
ピオトープ部  
蝶の飛ぶ街づくり

**奈良県立御所実業高等学校**  
「生物多様性の保全」研究班  
生物多様性ならプロジェクト  
～田んぼの生物多様性～

**出雲西高等学校**  
インターアクトクラブ  
出雲西高校インターアクトクラブの  
環境保全活動と国際活動について

**福岡工業大学附属城東高等学校**  
生徒会環境委員会  
高校生の環境意識改革  
～生徒主体の環境活動～

**大阪府立長吉高等学校**  
長吉高校 サッカー部  
One Goal One Smile

**和歌山県立田辺高等学校**  
生物部  
和歌山県鳥の巣半島で野生化して  
いるアフリカツメガエルの駆除

**四国**  
6団体

**大分県立玖珠美山高等学校**  
チーム flower's  
地域とレンゲツツジを繋ぐ架け橋に

**清風高等学校**  
アオコ研究班  
アオコの凝集・浮上・除去から  
わかったこと

**中国**  
12団体

**徳島県立小松島西高等学校勝浦校 &  
徳島県立新野高等学校**  
緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム  
ゴミとして捨てるのはもったいない!  
一資源循環型肥料の開発から次の一手・  
次の一歩に向けた環境創生への取り組み～

**大分県立大分東高等学校**  
リベベジ研究会  
見ちよくれ 寄ちよくれ やちちよくれ  
リベベジをゴミ軽減に活かせ!

**大阪府立平野高等学校**  
35期環境科学コース  
平高ピオトープから地域に発信!!  
生物多様性と自然の共存

**岡山県立井原高等学校**  
併校生物同好会  
オキナグサの保全活動

**清和女子中高等学校**  
清和ユネスコスクールプロジェクト実行委員会  
環境プロジェクト  
ホテル復興支援活動

**長崎県立諫早農業高等学校**  
食品科学部  
農業廃棄物の有効利用法  
かぼちゃのゼロ・エミッションへの挑戦

**神戸山手女子高等学校**  
カメラ部  
インガメ保全プロジェクト

**岡山県立邑久高等学校**  
生徒会  
地域の力を活用した  
ピオトープ池の水質改善

**高知県立嶺北高等学校**  
嶺北ECOFLUGELS  
知る! つながる! 発信する!  
自己の進路に生かす!

**長崎県立諫早農業高等学校**  
未来農業研究班  
食の安定供給を目指して  
～植物工場を活用した伝統野菜復活～

**兵庫県立播磨農業高等学校**  
播磨竹鶏物語  
竹チップ大作戦!!  
～救え、未来の畜産業～

**岡山県立邑久高等学校**  
理科研究グループ  
地域の特産品を活かした  
新商品の開発

**愛媛県立今治西高等学校**  
生物部  
フィールド調査とラボ実験の両面から  
取り組む環境保全活動

**長崎県島原農業高等学校**  
食品加工部  
環境保全型農業の確立を目指して  
～パッションフルーツと地元資源を用いた商品開発・普及活動～

**兵庫県立御影高等学校**  
環境科学部生物班  
六甲山のキノコにはどんな多様性があるのか  
～地域連携から伝える生物多様性～

**山陽女子中学校・高等学校**  
地歴部  
マイクロプラスチック:  
見えない環境問題へのアプローチ

**愛媛県立新居浜工業高等学校**  
TEAM 麺's!  
廃棄物から次世代エネルギーへ  
～食堂が世界を救う～

**熊本県立阿蘇中央高等学校**  
草原再生プロジェクト班  
阿蘇の草原を未来へ

**兵庫県立香住高等学校**  
矢田川の自然環境班  
魚たち跳ね踊る美しい川を  
守るための活動

**岡山県立津山工業高等学校**  
工業化学科  
竹林再生プロジェクト  
～地域の特色を生かした循環型資源活用の取り組み～

**愛媛県立宇和島水産高等学校**  
水産増殖科  
ESDの観点による  
宇和海の環境保全活動

**熊本県立鹿本農業高等学校**  
バイオ研究会  
熊本の地域資源活用プロジェクト

**兵庫県立篠山東雲高等学校**  
しののめ竹林マスターズ  
地域資源で環境創造  
～ありったけ(竹)使い切る～

**岡山県立高松農業高等学校**  
高農環境を考える会  
地域の自然をバトンでつなぐ

**九州・沖縄**  
17団体

**鹿児島県立薩南工業高等学校**  
建築工作同好会  
知覧型木材循環システム  
～木をもらう→作る→贈る・育てる→～

**滝川中学校・高等学校**  
インターアクトクラブ  
地域との共生をめざした  
環境保護活動

**広島県立油木高等学校**  
ニカワプロジェクト  
獣害から新たな資源へ、  
農村の6次産業の可能性

**福岡県立嘉穂総合高等学校**  
桂笑クラブ  
桂川ひまわりプロジェクト

**鹿児島県立錦江湾高等学校**  
二酸化窒素&オゾンマップ作成班  
反射型吸光度計による  
二酸化窒素・オゾンマップの作成

**兵庫県立神戸商業高等学校**  
理科研究部  
明石海峡西舞子海岸の漂着ゴミ回収

**広島市立広島工業高等学校**  
広島市エグリーン・プロジェクト  
外壁ラッピング  
～外壁の遮光で省エネ効果&室内での熱中症予防～

**東筑紫学園高等学校**  
夜空の明るさ研究チーム  
環境指標  
一エアロゾルと夜空の明るさの関係

**沖縄県立中部農林高等学校**  
エコ・リサーチ部  
美ら島を守る高校生の挑戦!  
～伝統ある蘭草がつかぬ結い～

**兵庫県立加古川東高等学校**  
水膜チーム  
濡れ性を利用した防汚瓦の開発

**米子工業高等専門学校**  
B&C 研究同好会  
食品廃棄物から自作した燃料電池を  
用いた次世代燃料による発電

**明治学園中学高等学校**  
環境マネジメント研究班  
北九州地区の大気汚染の調査と  
その原因の追究

**沖縄県立南部農林高等学校**  
科学部  
ソテツデンプンの利用法を考える I

# 全国高校生ESD学び合いフォーラム

## ESD学びあいフォーラム

第2回 全国ユース環境活動発表大会は、2日間行われました。オープニングとなる初日は、国連大学のレセプションホールで「全国高校生ESD学び合いフォーラム」が行われました。参加者は、高校生、大学生、社会人。一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)専務理事の辰野まどか氏の進行で、高校生は同じ学校の生徒たちと一緒にならないように着席し、初めは緊張気味だった高校生もすぐに打ち解け、全ての参加者が一体となったフォーラムになり、大いに盛り上がりました。



**テーマ** 持続可能な未来のあり方を考える

**プログラム** 基調講演、ワークショップ

◇基調講演 キリン株式会社CSV本部 大北博一氏 「社会課題への取組みと企業価値の創造」

◇ワークショップ 1) 事例紹介 社会人ゲスト 株式会社東京・森と市庭 菅原和利氏

2) ワークショップ「2030」(2030年に向けて)

### 基調講演

## 社会課題への取組みと企業価値の創造

キリン株式会社CSV本部 大北博一氏

キリンでは世界での社会課題、日本特有の社会課題について取り組んでいき、社会的な価値を創り出しながら、会社として利益も上げていく事をコンセプトとして、CSV活動に取り組んでいます。CSVと同じ考え方は近江商人の「三方よし」で、以前から日本に有った考え方です。そこで事業に近い社会課題について11の課題を設け、特に力を入れて取り組んでいこうと決めたのが「健康」、「地域社会への貢献」、「環境」。同時に「わくわくする価値をお客様と一緒に創って行きたい。」ということをキーポイントにしています。「環境」については長期環境ビジョンを設け、「2050年の資源循環100%の社会」実現に向けて、水資源、生物資源、地球温暖化対策、容器包装などに関する先行的な取り組みを進めています。環境問題は、環境に関する仕事をしている人だけでなく、多様な職種の人たちと一緒に取り組んでいくことが大切です。



### 事例紹介

## 東京奥多摩におけるまちづくり ～森林再生を通じた地域活性について～

株式会社東京・森と市庭 菅原和利氏

みなさんと同じくらいとき、将来について悩んでいたことがあり、自然が好きだったので自然のことや環境活動をやりたいと思い大学に進学しました。その後、東京の奥多摩というフィールドを知ることになり、もう長い付き合いになりました。テーマの2030年ですが、ひとりひとりが可能性に気付いて行動している社会になっているでしょう。地域の一員として多くのことを学べるようになった現在、地域が未来を目指すフィールドになっていって欲しいとの思いがあります。起業することになり、まちに94%もある森林資源をどう活用するかについて考えていこうとなり、林業を通して木と森をもっと良くしていく取り組みに就くことになりました。継続して活動していくことでいろいろな繋がりもでき、その結果、成果も生まれてくるものです。



### <この取り組みを取材した大学生より>

東京大学大学院1年 原智美さん

菅原さんへの取材を通じて、「東京の森」を中心にこれからの働き方やライフスタイルなどを持続可能性という視点から未来を見据えて考えている所がとても魅力的だと思いました。私も森から癒しやパワーを得ることができたのでそれを忘れないで、未来を見つめて1歩を踏み出していけるような大人になりたいと感じました。



## ワークショップ「2030」

高校生と大学生、社会人が7つのグループに分かれて一緒に、「2030年」に向けて様々な仕事や取組がどう「SDGs」実現に関与しているかを考えました。

ワークショップで話し合った内容は…

- ① 未来予測 こんな世界になっているだろう
- ② 私たちの作りたい未来
- ③ そのために、今こんな活動をしている



ファシリテーター：一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)専務理事 辰野まどか氏



### 成果：「私たちの作りたい未来」

～みんなのプレゼンボードより抜粋～

伝統的な農業が増えて、  
農業が行いやすい環境を作りたい

全ての人が  
楽しい生活ができる未来

きれいな町きれいな海  
きれいな日本

人間と野生動物の  
共存

多くのお互いの  
国の文化・価値観を尊重しあえる社会

魚を増やす！  
海洋資源が豊かな海を作る

Smart Community  
自然と人間と技術のバランス

キノコの多様性を伝え  
豊かな森林にみんなが興味をもつ

### ワークショップのご感想

環境大臣政務官 比嘉 奈津美 氏

みなさんのご意見を拝聴していて、短時間で話をまとめてプレゼンテーションが出来る能力、また省庁などで使うような専門的な用語をしっかりと理解しているボキャブラリーの多さに驚いております。

10年後、20年後は地球環境が悪化しているのでは？というネガティブな意見も聴きましたが、議論の結果、それぞれの高校生が「主語」、つまり取組の主体となって自ら頑張っていけば地球は守っていけるというポジティブな話に変わり、たいへん頼もしいと感じました。

今日の議論は、これからの持続可能な社会をみなさんが作っていくんだという大切な一場面であると同時に、高校生の青春の一場面ということでもあります。このワークショップで築いた横の繋がりが、みなさんの活動内容をいろいろな所へ発信する力にもなっていくと思います。

みなさんの活躍が日本だけではなく世界に共有できるものになっていくことは間違いありません。これからのみなさんの活躍に期待しています。



**KIRIN**

**キリン株式会社**

**神奈川県立鶴見高等学校**

**生物部**



神奈川県立鶴見高等学校 生物部のみなさん

## キリン横浜ビアビレッジで「自然の恵みを感じるツアー」を体験!

キリン横浜ビアビレッジでは、ビール製造工程見学の後、緑豊かな庭園・ピオトープを散策しながら、四季折々の植物や生きものの賑わいを感じられる『自然の恵みを感じるツアー』が実施されています。今回、地元の鶴見川の生態系調査をしている鶴見高校生物部がこのツアーとピオトープ視察を体験。そのあと、キリングroupが取り組む『長期環境ビジョン』について学びました。

### キリングroupの飲み物は、自然のめぐみからつくられています。

「子どもたちの世代に美しい地球を残したい」、それは多くの人々の想いであるとともに、キリンの想いでもあります。なぜなら、キリンの飲みものは農産物と水を使用して容器に詰めてお客様にお届けしていますが、その過程で発生するCO<sub>2</sub>による地球温暖化が原料である農産物と水に影響を与える、まさに自然のめぐみに支えられた事業だからです。そのことを見つめ直し、キリンが取り組まなければならないと考えて定めた方向性が「キリングroup長期環境ビジョン」です。

### キリングroup長期環境ビジョン 2050年目標

キリングroupは、子どもたちの世代に美しい地球を残し、お客様に飲みものをお届けし続けるために、重要な原材料である「自然に育まれた原料」「豊かな水」「やさしいパッケージ」を持続可能な形で利用し、「地球温暖化」に対応するために事業を通じて排出されるCO<sub>2</sub>排出量を2050年には半減することを目指して取り組みを始めました。こうすることで、2050年には私たちの事業に係わる環境負荷を、地球が賄うことのできる能力とバランスさせていきます。「長期環境ビジョン」は、豊かな地球のめぐみを将来にわたって享受し引き継ぎたいという想いを、バリューチェーンに係わるすべての人々と共につないでいきます。

### キリン「高校生環境研修」

今回の研修では、スリランカの紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得支援や、生産量がピーク時の4分の1にまで減少している遠野ホップ畑の現状とホップ畑が存在することの意味を示すための生きもの調査などについて学びました。また、ピオトープ視察の際は、キリンが連携している、「NPO法人鶴見川流域ネットワーク」の方々とも偶然に出会い、地域の自然についての説明を聞くことができました。



ピオトープ視察



自然の恵みを感じるツアー

### 神奈川県立鶴見高等学校 生物部

#### 感想



**高梨 友樹さん(3年)**

今回の研修を通して、持続可能なエネルギーの重要性について学んだ。今後この世界を担っていくにあたり、持続可能なエネルギーをどう増やしていくかが課題であると感じた。



**鈴木 未波さん(2年 部長)**

ホップの栽培など、大切な技術が次世代に伝わらず減りかけていることを知り、驚いた。多くの人が同じようにこの現状を知らないと思うので、今後の活動を通して同世代にも伝えていきたいと思った。



**天野 来紀さん(1年)**

キリンビールがビールだけでなく、「ビールを作り続けるための環境」を作ることに力を入れているということを知って驚いた。企業の環境問題への取り組みに興味を持った。



**折茂 祐輔さん(1年)**

環境問題に力を入れている企業が、もっと増えればいいなと感じた。私自身もできることから環境への取り組みを進めていきたい。



**鈴木 りりこさん(1年)**

環境問題に対して、少しでも関心を持つこと、少しずつでも取り組んでいくことが重要なのだと思った。



**濱崎 亮さん(1年)**

環境の悪化は人間の生活によって起こってしまったことなので、人間自身の手で復元していかねばならないと感じた。持続可能な社会を目指し、少しずつでも日々の生活を変えていきたい。



SGホールディングス株式会社

東京都立富士森高等学校  
&  
工学院大学附属高等学校



東京都立富士森高等学校と工学院大学附属高等学校のみなさん

## 『佐川急便 高尾100年の森』里山体験！

SGホールディングスグループでは、高知県・徳島県および東京都八王子市(高尾)に合計約735ヘクタール(東京ドーム約160個分)の森林を自社保有しています。これらの森林保全を通じて、CO<sub>2</sub>の吸収源とするとともに、環境コミュニケーションや環境教育の場としても広く提供しています。

「佐川急便 高尾100年の森(東京都)」では、人と自然が共生し、100年先も続く持続可能な里山を再生・保全する活動を2007年にスタートさせました。今回、八王子市にある2高校の生徒が環境研修に参加し、SGホールディングスグループの環境への取り組みを学び、里山の保全活動を体験。研修の最後に、「高校生環境宣言」を発表しました。

### 環境活動は物流事業者としての責務

SGホールディングスグループは、デリバリー・ロジスティクス・物流不動産などの事業を国内外で展開する総合物流企業グループです。車両を使用して事業を営む物流事業者として、環境負荷低減に取り組むことは大きな責務だと考え、グループ全体で地球環境に配慮したさまざまな活動を進めてきました。グループの中核である佐川急便は1997年COP3が創業の地・京都で開催されたことを契機に、事業活動を通じてCO<sub>2</sub>排出量の削減、地域社会と連携した環境負荷の低減、循環型社会への貢献を目指してきました。環境対応車の積極導入(約8,000台)、台車や自転車を用いて人力で集配を行うサービスセンターの設置、ペットボトルをリサイクルしたユニフォームの採用などが主な代表例です。一方、豊かな自然との共生を目指して森林保全活動に取り組んでいます。佐川急便、佐川林業は定期的な間伐を行うなどCO<sub>2</sub>の吸収源となる健全な森林を育成するとともに、そこに生息する動植物の生物多様性の保全にも取り組んでいます。

### 社有林を活用した次世代の環境教育

佐川急便が所有する森林「高尾100年の森」は、2016年3月東京都八王子市より環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」に認定され、里山保全を通じた次世代の環境教育を行っています。今回その「高尾100年の森」において、「初めての里山体験～豊かな自然を考える」をテーマにした高校生環境研修を実施しました。当日は里山ガイドウォークやアオキ刈りなどの森林保全作業を体験して里山に親しみました。とくにアオキ刈りでは高校生らしい力強さを発揮し、当初と見違えるほどの作業成果を出していました。また今後、環境のために取り組むことについて、高校生同士が積極的な意見交換を行い、最後には両校による「高校生環境宣言」をとりまとめました。今回の研修を通じて、企業が行う持続可能な社会への貢献と、個人ができる貢献について学び、自分たちは何ができるかを考え、行動につなげることが必要なのではないのでしょうか。



里山ガイドウォーク



アオキ刈り

#### 東京都立富士森高等学校 アウトドア部

佐古結希さん(2年) 樋口真人さん(2年) 藤原大虎さん(1年)



#### 高校生環境宣言

「CO<sub>2</sub>を削減する」

環境への負荷を低減していく企業や個人が増えていったらよいと思う。校内にてマイボトル所持を促すポスター等を貼る。

#### 工学院大学附属高等学校 生徒会・自然科学部

近藤優成さん(1年) 中林在さん(2年) 栗田海さん(2年) 青木健悟さん(1年)



#### 高校生環境宣言

「より多くの生徒に環境体験の参加を促し、より広い視野で環境について考える。」  
様々な環境体験を一般生徒にも参加できるような機会を増やし、世界中の環境問題をどのように解決できるかを考えていく。



協栄産業株式会社

茨城県立水戸工業高等学校

生徒会



茨城県立水戸工業高等学校 生徒会のみなさん  
(毎日届く再資源化用の大量のペットボトルの前で)

## 『分ければ資源、混ぜればゴミ』知っていますか？ ペットボトルリサイクル！

日本有数のペットボトルリサイクル技術を誇る協栄産業グループ。今回、茨城県立水戸工業高等学校生徒会のメンバーが、協栄産業グループの最新工場＝ジャパンテック(株)東日本PETボトルMRセンターを訪問し、高校生環境研修を実施しました。高校生にとって最も身近な飲料容器「ペットボトル」が、どのようにして再生されていくのか。限りある資源を次世代にもつなげるために今の私たちに何ができるのかを学びました。

### 分別して捨てたら・・・リサイクルは終わりではありません

身の回りの様々なものに生まれかわるペットボトル。あなたが毎日着る制服にもペットボトルの再生素材が使われているかもしれません。そんな「リサイクルの優等生」として93%が回収されるペットボトルですが、実はその多くが良質な資源として海外に輸出されています。リサイクルすれば原油と同じように利用できるペットボトルは『都市油田』です。国内での循環の拡大が、持続可能な社会を実現します。

### リサイクルするとどんな良いことがあるの？

実は原油由来のペットボトル素材と再生素材を作る場合を比較すると63%ものCO<sub>2</sub>排出量を削減します。COP21でパリ協定が成立するなど、CO<sub>2</sub>削減の世界的な取組みが広がる中、日本が掲げる削減目標の達成にリサイクルが貢献します。また、不純物を完全に除去した再生技術の開発で、不可能と言われていたペットボトルが再びボトルに蘇る日本初の『ボトル to ボトルリサイクル』を2011年に実現。現在では100%再生素材のボトルも登場し、協栄産業グループの再生素材を使えば、原油を新たに使う必要がありません。

### みなさんにもできること

資源のない日本ですがペットボトルという貴重な資源を国内循環することで、地下資源の利用抑制と温暖化防止に繋がります。飲み終わった後にラベルを取って中を洗うことで、その後に生まれる再生素材の品質が向上します。是非協力を続けて頂き、地球の未来を明るくしましょう。



選別工程見学の様子



世界の有名サッカーチームのユニフォームにも再生素材が使われている



研修は土曜日。研修後、協栄産業古澤社長と記念撮影

## 茨城県立水戸工業高等学校 生徒会

### 感想



濱村 星苑さん(2年)

私は普段、キャップをはずすだけで終わりにしていましたが、この研修でラベルをはがしたり、ゆすいだりするだけでも大きく変る事に気がきました。



鈴木 もりのさん(2年)

石油を輸入しなくても、いろいろな製品を作れるという技術に驚き、私自身も日常生活からリサイクルを意識してみようと思いました。



吉田 真菜さん(1年)

ペットボトルを細かく分別する理由がよく分かりました。ペットボトルの都市油田のお話を聞き、分別をこれからも続けていきたいと思いました。



池元 達彦さん(2年)

説明を聞き、不可能と言われたボトルに戻ることにも成功したことを知って驚きました。ペットボトルに対するリサイクルの考え方が変わりました。



益子 静羅さん(1年)

今まで、なんとなくペットボトルを分別していましたが、分別することの大切さを知り、地球をよりよい形で残せるように協力していきたいと思いました。

# 都心で生物多様性に配慮した 緑化に取り組む

三井住友海上火災保険株式会社

MS&AD

三井住友海上



ECOM駿河台と緑豊かな前庭緑地

## なぜ損害保険会社が「緑化」?

三井住友海上が本社である駿河台で緑化に取り組み始めたのは1984年、今から30年以上も前のことです。屋上庭園を備え、敷地割合が4割を超える緑化は画期的なことでした。ではなぜ取り組んだのか。それは地域のみなさまからの「まちに緑を増やしてほしい」という声に応えるためでした。本社ビルの建設にあたり「地域との共存共栄」をコンセプトにしたのです。

## 東京・千代田区の“駿河台”という場所で取り組む意義

駿河台は皇居と上野公園という緑豊かな拠点の中間にあります。この地で緑が増え、野鳥が往来する「鳥の駅」として機能できれば、エコロジカル・ネットワークを作れると考えました。過去からの野鳥観察データをもとに誘致目標種を設定し、その野鳥が好む樹種の中からアレルギーなど人体への影響がないこと、在来種であるか、蝶や蜂などの蜜源植物かどうかなどを検討し、一本ずつ樹種選定を行いました。都心の緑地として、生物多様性ととも人にやさしく配慮しています。

## 緑地の持つ可能性

緑があると、少しほっとしませんか?ビルの多い千代田区の中で7,000㎡を超える緑地を運営することは、都会のオアシスのような役割を果たしているのではないかと考えています。屋上庭園の中には菜園も設け、25区画を近隣の方たちに無料で貸し出しています。長年この地域に暮らす方からは「このコンクリートに囲まれた駿河台で野菜が育てられるとは思わなかった。楽しい!」という声もいただいています。近年、異常気象で水害が多発しています。実は、緑地はこの点でも役割を果たしています。植物が放出する水蒸気がヒートアイランド現象を和らげ、緑地が雨水を貯めること(蓄雨効果)で都市水害の被害を減らすのです。

何もないうときには楽しい緑、何かあるときには頼りになる緑。損害保険会社として、そんな緑地を運営していきたいと考えています。屋上庭園は直通のエレベーターで時間内はどなたでも自由にご覧いただくことができ、その向かいにあるECOM駿河台という施設では、生物多様性のすばらしさや面白さを体験していただくイベントや展示を行っています。お近くにお越しの際はぜひ遊びに来てください。

ECOM 駿河台・屋上庭園開園時間

ECOM 駿河台: 平日10時~17時

屋上庭園: 平日10時~17時(11月~3月は16時まで)

<http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/afforestation/>



25区画を貸し出す屋上菜園



菜園で元気に育ったミニトマト

三井住友海上火災保険株式会社は、ユースの環境活動を応援しています。



WWF (世界自然保護基金) ジャパン

NPO法人千葉大学環境ISO  
学生委員会



NPO法人千葉大学環境ISO学生委員会の皆さんとWWFジャパン山岸尚之さん(中央)

# パリ協定と世界の気候変動対策の潮流

～日本、そして私たちはどうするべきか～

2016年12月、温暖化を防ぐための新しい世界協定「パリ協定」が発効となりました。

そこで、千葉大学の環境ISO学生委員会の皆さんが、国際的な環境保全団体であるWWFを訪問。

パリ協定についての研修を受け、大学生として何をすべきかを考えました。

## 「パリ協定」とは？

パリ協定は、2020年以降、世界の国々がどのように温暖化防止に取り組むかを定める国際協定です。

世界の平均気温は、産業革命前よりすでに約1度上昇。このままでは、21世紀末に4度上昇すると予測されています。しかし、温暖化がもたらす影響を、人類がなんとか対応できるレベルで抑えるには、1.5度ないし2度未満までの上昇に留めなければなりません。

パリ協定には、①地球の平均気温の上昇を、産業革命前と比べて2度より充分低く抑え、さらに1.5度未満にするよう努力する

②今世紀後半に温室効果ガスの人為的な排出を実質的にゼロにする、という、野心的な目標が盛り込まれています。

## 本当の意味での国際合意

過去、温暖化防止の国際交渉は常に難航してきました。大きな要因のひとつは、温室効果ガスを大量に排出している国と、まっ先に温暖化の影響に苦しむ国とが異なることです。そうした中で、先進国も開発途上国も参加する本当の意味での国際合意として生まれたのが「パリ協定」です。

これを絵に描いたモチにしないためには、パリ協定を実現させる国際的なルール作りと、各国の国内における具体的な温暖化防止策の実施が重要となります。日本はここ数年、温室効果ガスを減らすことができていません。政府はもちろん、企業や個人の取り組みも、ますます重要になってきています。

## NPO法人千葉大学環境ISO学生委員会

### 感想



嶺 康平さん (法政経学部)

学生団体という「産官民の中間に位置する存在」であるからこそ、それぞれの架け橋と成れるよう今後の活動を展開していきたいと思っています。



柿原 啓人さん (法政経学部)

国際社会において、環境に対する危機感が強く抱かれていることを学べました。これから社会に出て行く中で、この認識を役立てていきたいと思いました。



日隈 壮一郎さん (工学部)

国際的にも有名な企業や多くの国が気候変動対策を本格的に始めています。それを受けて、日本でもより本格化・浸透して欲しいと感じました。



松村 佳孝さん (工学部)

パリ協定によって、様々な背景を持つ国々が合意に至ったことに関して学べました。今後は世界の流れを理解し、行動したいと思います。



近藤 優衣さん (法政経学部)

今、自分がいる位置から多角的な視点を持って世界を見ること、私たち大学生が実践できることを見つけていきたいです。



林田 裕紀さん (理学部)

自分で行動するだけではなく、それを他の人と共有し、その大切さを理解していない人へ伝えていくことが最も大切なことだと思いました。



矢野 由希子さん (法政経学部)

パリ協定採択の経緯や採択にあたっての国際社会の意志を知り、感銘を受けました。



篠原 愛恵さん (国際教養学部)

環境問題を解決する上で相手の立場も考え、自分の選択を決めていこうと思いました。



岡 桃菜さん (国際教養学部)

温暖化対策のために新たな企業や投資が動き始めており、社会的にも注目されていることが分かりました。

## WWFの活動をぜひご支援ください

WWFは100カ国以上で活動する地球環境保全団体です。その活動はすべて皆さまからのご寄付や募金で成り立っています。ぜひ世界の自然保護に力を貸してください。



私たちはWWFです  
人と自然が調和して生きられる未来をめざして、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

[www.wwf.or.jp](http://www.wwf.or.jp)

## 国連大学サステナビリティ高等研究所

プログラムアソシエイト 丸山 鳴



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

**UNU-IAS**

Institute for the Advanced Study  
of Sustainability



SDGsのアイコンでライトアップされる国連本部ビル(ニューヨーク) UN Photo/Cia Pak

# 地域から世界へ、世界から地域へ

## ～GEOCプロジェクト～

2015年9月に国連に加盟する193カ国は、世界の貧困、飢餓、不平等、紛争、気候変動の問題を解決し、より良い未来を目指すための目標「国連持続可能な開発目標(SDGs)」に合意しました。17項目あるこの目標は、途上国も先進国も取り組むべき項目から構成され、達成期限は2030年となっています。この大きな目標は世界の共通の目標ですが、ひとりひとりの身近な活動が目標達成のカギとなります。また、SDGsで取り上げられている課題は、お互いに関係していることから、解決には分野や立場を越え様々な人が協力する必要があります。

### 地域と世界をつなげるGEOC

地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)は、国連大学と環境省が共同で実施するプロジェクトです。GEOCは、様々な人とのつながり(パートナーシップ)による課題の解決を軸に、地域の取り組みと国際的な取り組みをつなげる活動を推進しています。それらの活動の一環として、国内の環境に関する情報を国際的に発信するとともに、国際的な課題を日本国内に普及するための啓発活動を公開イベントなどを通じて行っています。2016年には、主に地域の課題とSDGsをテーマとしたイベントを開催しました。イベントでは、SDGsの課題は多くの地域が抱える課題と共通していること、地域の課題や身近な課題に取り組むことがSDGsへの貢献につながること、目標は相互に関係し合っているため、17項目のどれか1つの目標に取り組むことが他の目標に貢献することにもつながること、目標17に掲げられているパートナーシップがすべての目標に共通して重要であることが確認されました。

### 地域から世界へ、世界から地域へ

SDGsは世界の共通の言語であり、SDGsを意識することにより、地域から世界へ、世界から地域へと同じ課題を持つもの同士がつながることができます。GEOCは今後も、様々なパートナーシップ促進活動を通じて、地域の現場の取り組みと国際的な取り組みをつなげる活動を、市民社会、学校、国際機関、研究者、企業などさまざまな人々と連携して実施していきます。また、東京・青山の国連大学本部ビル1FのGEOCスペースでは、セミナースペースの無料貸出のほか(情報ポータルサイト「環境らしんばん」の会員登録が前提)、NPO・NGOの情報コーナー、環境にかかる書籍を集めた環境ライブラリー、SDGsや時期にあった環境課題のパネル展示コーナーを設けています。また、企業の社会貢献活動とNPO・NGOのマッチング相談などにも対応しています。お近くにお越しの際はぜひGEOCスペースに立ち寄ってみてください。



2016年10月に開催したSDGsと地域のパートナーシップに関するシンポジウムの様子



国連大学1FのGEOCスペース

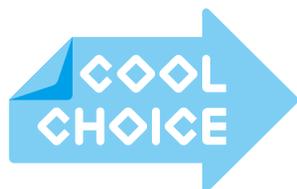
# 全国ユース環境ネットワーク

2017 Spring

VOL.4

## 環境省からのお知らせ

賛同募集中! 国民運動「COOL CHOICE」にぜひご参加ください!



地球温暖化対策のための「賢い選択」

未来のために、いま選ぼう。

クールチョイス

検索

## 環境再生保全機構からのお知らせ



環境保全活動を支えるための

「地球環境基金サポーター」を募集しています!

地球環境基金は、民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動を支援しています。地球環境を守るために、ご支援宜しくお願いいたします。

詳しくはこちら ⇒



<http://www.erca.go.jp/jfge/donation/raise/supporter.html>



## 事務局だより

### 第2回 全国ユース環境活動発表大会を終えて

今年度も全国ユース環境ネットワーク事務局にご協力をいただき誠にありがとうございました。

第2回 全国ユース環境活動発表大会も、みなさまに助けをいただきながら、無事に終わることができました。

心より感謝申し上げます。また、次年度もみなさまや新しい後輩のみなさまとご一緒したいと思います。

#### 全国大会 事務局レポート

さて、全国大会では、5つの高校と2つの大学団体に特別な賞、11の高校に優秀賞が贈賞されました。みなさま、本当におめでとうございます。事務局では、発表を通じて感じた2高校について、トピックスとしてご紹介させていただきます。

#### 兵庫県立播磨農業高等学校 播磨竹鶏物語

写真の生徒さんが、約10分間の発表の中でおよそ1分間、環境活動の替え歌を、1人で、生で、しかもアカペラで、歌いあげました。会場からは、大喝采! 優秀歌謡賞を贈りたい気持ちです。これからもがんばってください!



#### 慶應義塾湘南藤沢高等部 有志団体 環境プロジェクト

新しい手法のインタビュー形式で発表をされました。1人がアナウンサー役で質問し、3人が環境活動について答えました。生徒さんだけで考えたプレゼンとのこと! 優秀企画賞を贈りたい気持ちです。これからもがんばってください!



たくさんの素敵なお発表ありがとうございました。ユーモアあふれる様々な演出(亀の甲羅の装着、大きくて臭いきこを持参し紹介など)に私たちも楽しみながら学ぶことができました。来年もみなさんの独自性・創造性、そしてユーモアあふれる発表を見られる事を楽しみにしています!



## 第2回 全国ユース環境活動発表大会 実施概要

- 【日時】 平成29年2月4日(土)・5日(日)
- 【会場】 国連大学〈東京都渋谷区神宮前〉
- 【主催】 全国ユース環境活動発表大会実行委員会  
〈環境省／独立行政法人環境再生保全機構  
国連大学サステイナビリティ高等研究所〉
- 【協賛】 キリン株式会社  
協栄産業株式会社  
SGホールディングス株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社
- 【協力】 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)  
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)  
全国大学生環境活動コンテスト実行委員会  
WWF(世界自然保護基金)ジャパン  
一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)



KIRIN

KY&EJ

SGH

MS&AD

三井住友海上

発行

全国ユース  
環境ネットワーク  
事務局

〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階  
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局  
Tel:044-520-9505 メール: youth@erca.go.jp 法人番号: 8020005008491

URL: <http://www.erca.go.jp/jfge/youth/index.html>

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

